

インドヒマラヤ遠征報告

～普通の会社員でもできる！海外登山～



ダラムスラとは？

インドヒマラヤ・ラホール山群に位置する
標高6446mの山

美しい三角錐のような山容から
ホワイトセイル（白い帆）
とも呼ばれる

同山群では隣に位置するパプスラ
（6451m）に次ぐ高峰



なぜ、インドヒマラヤ？ なぜ、ラホール山群？



ラホール山群は5000m～6000mの花崗岩が卓越した山が連なる。良質な登攀が可能。友人である上田幸雄、馬目弘仁両氏からの情報も得られる。

インドヒマラヤではブッキングした山でなくても登ることができる！つまり悪天候の場合でも国内と同じ感覚で何らかの山は登れる。



地形
地形と標高を表示します

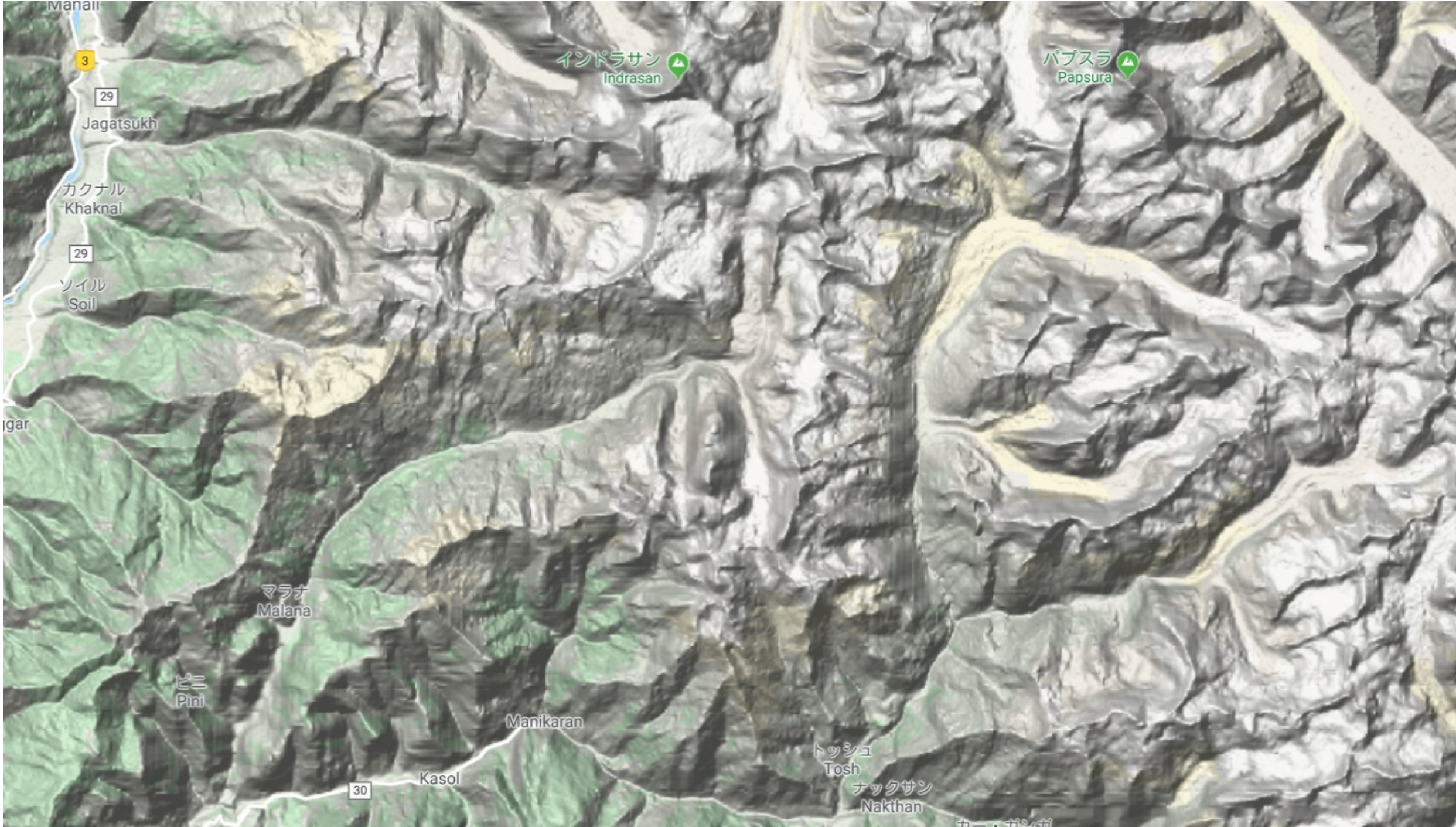


ビーカー
ネール
Bikaner

アンナプルナ
保護地域
अन्नपूर्ण
संरक्षण
क्षेत्र



ネパール



Manali

3

29

Jagatsukh

カクナル
Khaknal

29

ソイル
Soil

igar

マラナ
Malana

ピニ
Pini

Manikaran

Kasol

30

トッシュ
Tosh

ナックサン
Nakthan

カー・ガンガ

インドラサン
Indrasan

パプスラ
Papsura

隊員紹介

磯野直也

富山大学山岳部所属

山梨県出身。大学1年から登山を始め冬山や沢登り岩登りを経験する。そして、生まれて初めての海外旅行がインドヒマラヤの遠征となる。

医療・食料担当



隊員紹介

武田 誉史
富山登攀クラブ所属

東京都出身。大学在学時の北海道で登山を始めロッククライミングを中心に活動し、就職を期に富山へ転居した。オクトス富山店に勤務。

記録担当



隊員紹介

大瀧一哉
富山登攀クラブ所属

富山県出身。幼少のころから親しんだ釣りや山登りから自然にクライミングを行うようになる。本人曰く、「自分はクライマーではなく釣り人」だが、登攀力は素晴らしく釣り人離れしている。会社員。

装備・渉外担当（英語は話せない）



隊員紹介

和田一真
富山登攀クラブ所属

愛知県出身。大学から登山を始めて以来、14年間ほぼ中断無く年中山や岩を登る。登るジャンルは一切問わない雑食登山者。

年間休日116日（有給含まない）、250名規模の事業所に務める普通の会社員。時々海外の山に行く。



インド登山財団 (IMF) にてブリーフィング



デリー市内にあり、海外からの登山隊は最初に必ず訪れる必要あり。登山隊へのルート確認と諸注意事項の説明を受けるリエゾンオフィサーともここで合流する

マナリにて準備



デリーから車で合計15時間ほどで登山拠点となる街のマナリに到着。調理器具やBC等の機材はデリーから持ち込み、ベースキャンプ滞在中の食糧の準備はマナリで行う。基本的にエージェントとコックがすべて準備するので細かな買い物をしに街をぶらぶら。

登山口の村トシュ



マナリから車で4時間30分程度で登山起点となるトシュに到着。トレッキング客やヒッピー風の若者と外国人が多い村。

登山口の村トシュ



ベースキャンプまでキャラバン

1日目 トシュからブッタパン2800mまで



ベースキャンプまでキャラバン

2日目 ブッタパンからサラムターシ3400mまで



ベースキャンプまでキャラバン

3日目 サムシターシ3750mへ



4日目 ベースキャンプ入り



5～8日目 偵察・順応活動



悪天が続き、
思うように偵察ができず...

クレバスに落ちる危険も
あるので無理に進めない

5～8日目 偵察・順応活動



標高を上げると
雨はみぞれに

酷い時は雨宿りでしのぐ

順応・偵察登山



BCを設置した谷の西に見えていた山で標高5600mほど？

一見して登ることが出来そうで面白そう、ということで決定

周囲のほかの山の様子も見ておきたかった



C1
(ツェルト)

順応・偵察登山

5000m地点で宿泊



順心登山2日目





何気ない雪面だが
クレバスが危険
ロープを結んで行動

赤矢印の
いずれのルートが
頂上へ行けるのか？

行ってみないと
わからない

右のクーロワールへ



クーロワール内は
日射の影響が少ないのか
雪が比較的安定していた

岩の摂理も発達しており
ロックギアがよく使える

順応登山翌日・・・



写真では見づらいが
雪崩を目視した

アタック

W.Tos氷河を詰める



アタック

W.Tos氷河を詰める



稜線に上がるまでは冰雪で稜線は岩稜となり興味深い。おそらく未登でありながら、4人でも登頂の可能性があると考えた。便宜上、「台形」と呼んだ

連日の悪天によるコンディション不良



ラッセルが深いうえに
巨岩帯で足を取られて
一向に進まない

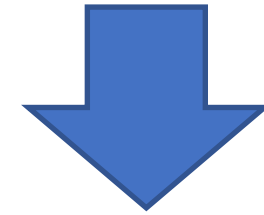
氷河上に上がるためのクレバス
帯のルートファインディングは難
解

加えて6日分の食糧と装備

クレバス帯をゆく



落ちた時の引き上げの訓練やシステムは頭に叩き込んであるが、そもそも落ちて勢いが付いた人間を止められるのか？という問題は残る...



落ちないようにルートファインディングが最重要

セラックとは？



流動する氷河の圧力を受けて
押し出されるような
格好になった氷塊

建造物のような規模だが
突如崩壊することもあるためルート取
りは慎重に

ABC(Attack Base Camp)

5050m



岩小屋のような場所を発見

ここでしばらく生活する

終始快適なベースになった

台形5890mを目指して



ここに登りたいので

こんな感じで進みます

まるで日本のラッセル



まるで1日降雪が続いたため吹き溜まりでは50～60cmの積雪となる。

高度障害+湿雪ラッセルにより遅々として進まない。武田の風邪も悪化する。

時々アイスクライミング



ここを登りきると
5890m峰の基部に到達できる
・・・と思っていたが
まだラッセルも長く
基部の岩場の通過も考えると
ワンデイは100%不可能と判断

5890m 峰の全容



写真撮影地点から
赤線のスタートまで
3時間はかかると予想

上部雪田も重いラッセル
最上部の岩のパートも
どの程度時間がかかるか
不明。

不安定な天候に加えて武田
の体調不良が重なる。

周辺のピーク登頂の可能性を探る



チョタ・シグリⅢ峰

クライミングが楽しめそうだが
ロックギアが明らかに足りない
オンサイトで1日で登り降りるには厳しい



5500m峰

右面の雪面から上がれば
技術的には容易に思える

登攀者として、より困難を目指し失敗を恐れず5890m峰へアタックすべきか、易き登頂を選ぶか議論する
最終的に4人でピークを踏もう！と決めて5500mの登頂を目指すことに

5500m 峰の偵察



ラッセルは太腿から腰までと深いけど危険なクレバスは無い。

午前中は雪が強かったが昼前から晴れ間が覗く。

アタック当日



深いところでヘソまで潜る深い雪
ラッセルもきついが
それ以上に雪崩のリスクも



美しいインドラサン

山頂5500mにて



山頂5500mにて



下降



スノーボード

雪を写真のように
切って支点にする技術

人工物を一切残さずに
この登山を終えることができた

結び

隊員全員特別な身体能力や頭脳は誰も持ち合わせていない。
ただ、登山が好きで人よりも多くの時間を割いていただけ。
やるか、やらないか。その意思決定の根源は本当に好きな事なのかどうか。

辛抱強く準備し続け、日々目標を持って毎日を過ごし、毎週末の山に臨めば自ずと海外遠征への機会を掴むことが出来るはず。

ご清聴ありがとうございました

